

学校の帰り道

彼女は強引に  
手を引っ張り

僕をどこかへ  
連れて行くつもりだ

僕は不思議な少女に  
出会った

連れてこられた先は  
神社だった

って  
こんなところに  
神社なんてあったっけ？

雄太！

良く来たね  
雄太

ようこそ  
浅国神社へ

扉を開けると  
そこは外の世界とは  
別世界だった

建物の大きさより  
もっと広く  
まるでひとつの  
街のようだった



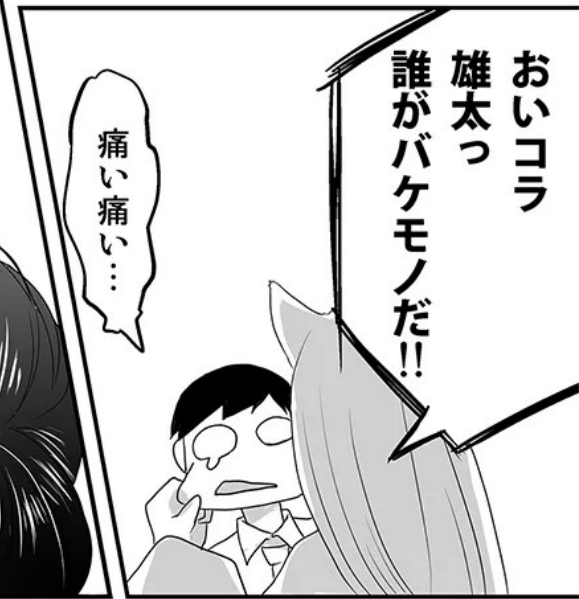
私の言った通りでしょ

バケモノ...!



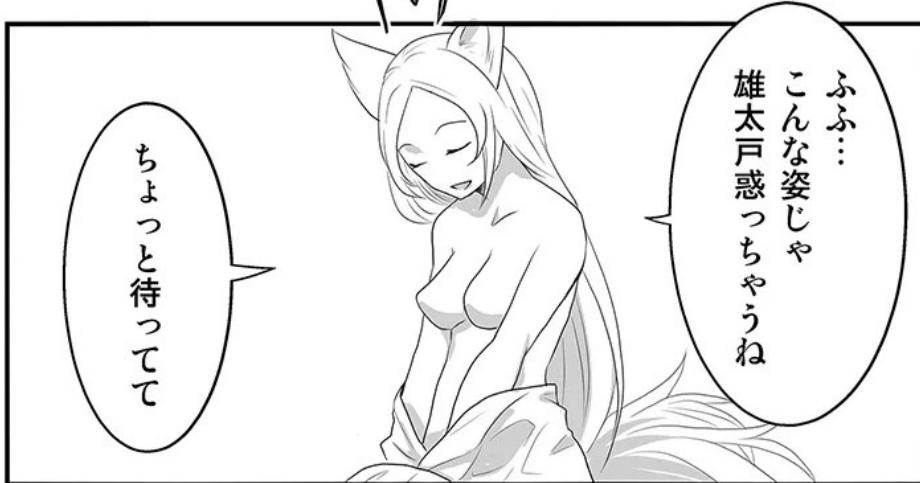
最初からこうして強引に連れてくれば良かったのよ

雄太は単純だからこうするのが一番早かったのよ



痛い痛い...

おいコラ  
雄太っ  
誰がバケモノだ!!



ふふ...  
こんな姿じゃ雄太戸惑っちゃうね

ちよっと待ってて



ねっ?

ふんっ

えっ?

えっ?

僕は...夢でも見てるの?



着替えてくるから待ってて  
逃げちゃ駄目よ♡



こっ これって…  
着ぐるみ…？

すげえ…  
本当に人間みただ

着替えてきたよ！

これなら  
大丈夫よね



雄太！  
お待たせ！



さて  
一ノ瀬雄太君…



中西さん？  
羽岡さん？

それに  
八尋先生！？



もっ  
申し訳ございません

神楽様…



口を慎みなさい刹那！  
失礼ですよ！

引きなさい！



先生にケンカを  
売ったのですから  
どうなるか分かってるわよね？

さっきバケモノと  
言われて怒ってた人…  
かな…？

あの怖い八尋先生が  
中西さんに命令  
されてる!!

私たちはここ  
浅国神社を護る巫女…



代々何百年という  
長い年月護り続けてきました…

ですが  
徐々に民の心は  
この神社から離れ  
存在自体も忘れられる  
始末…

いつからか  
私たち子孫が生まれなく  
なっていました…



当然です…  
民から忘れられた  
神社など消えて  
しまつて当然…

ですが私たちは  
どうしても諦めることが  
出来ません！



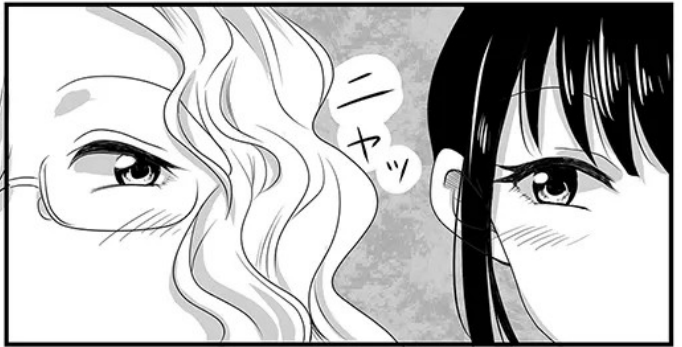
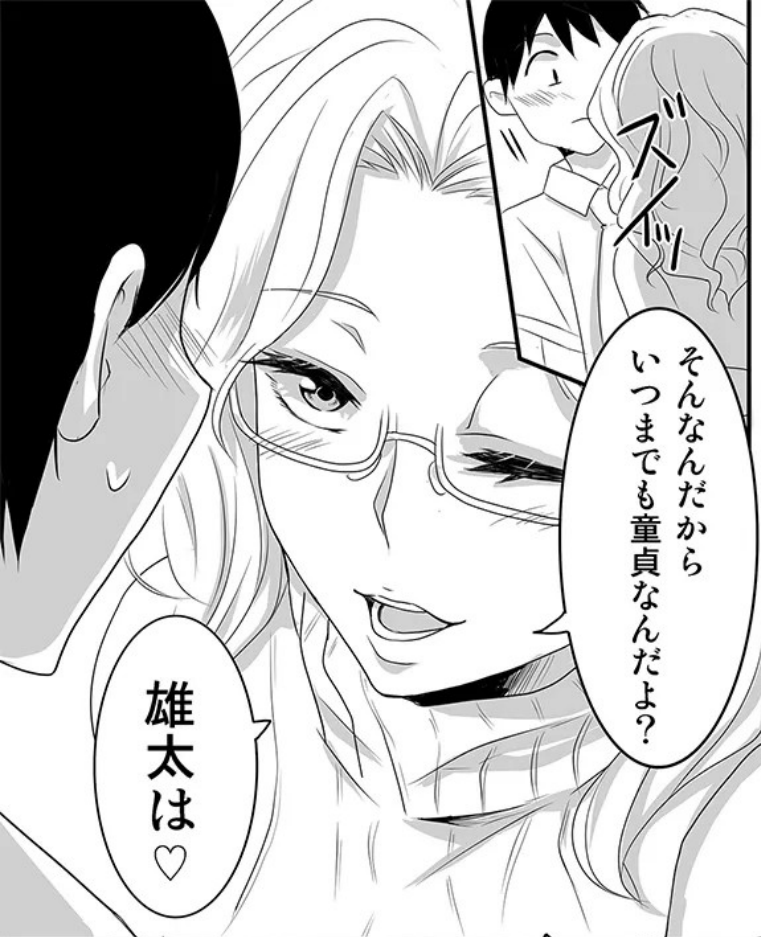
お願いします  
雄太くんの精子を私たちに  
ください!!

私たちを助けると思つて  
どうか…お願いします!!

ちよつと待つて  
三人とも…

急に土下座  
されても困るよ!







雄太  
騙されちゃダメ

私ね…  
教室でずっと雄太のこと  
見てたんだよ♡

経験豊富そうに  
見えて  
彼女だって処女  
だからね

私の方が絶対  
雄太に相応しい  
んだから

雄太が彼氏だったら  
どんなに幸せか…  
ずっとずっと思ってた…



雄太わかる？

熱くて…  
すごいのが…  
止まらなくなるの♡

ねえ♡  
雄太

雄太の近くに  
いるだけで  
こんなに溢れて  
きちゃうの…♡



あっ♡  
ああん♡

好きっ  
雄太大好き♡





それにしても  
凄いな...これ...

僕...  
何やってんだろ

はあ...

本当に  
人間みたいだ...



ん?



それと...ね  
雄太

言いづらい  
んだけど...



そろそろ前  
しまつてもらつて  
いい?

うわああっ!!



それはね...  
雄太

私たちが  
人間界で生活するために  
変装するための神器

それを着ることによって  
私たちは人間に化ける  
ことができるの



その方が  
女の子同士だから  
楽だと思うの!

そうだ神楽様!  
その神器  
雄太に着せようよ!

あっ!



ほら  
邪魔だから早く  
服を脱ぎなさい

女の子って楽しいわよ  
ほら…早く着ますって  
言いなさい

ちよっ  
僕は着な…

はいっ!!

着ますっ!!



ほら  
ここに切れ目  
あるでしょ?

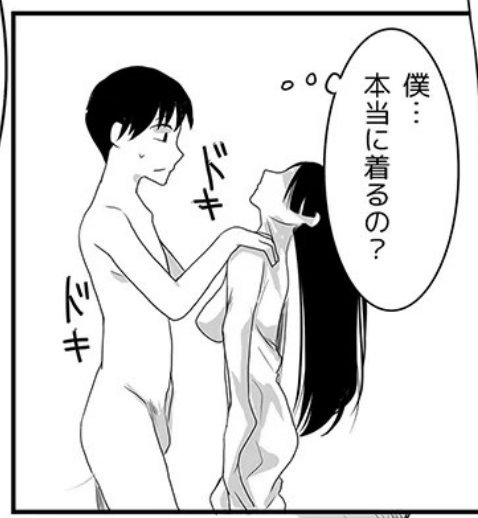
ここから  
着るの



これで良し!

ごめんね  
雄太

……



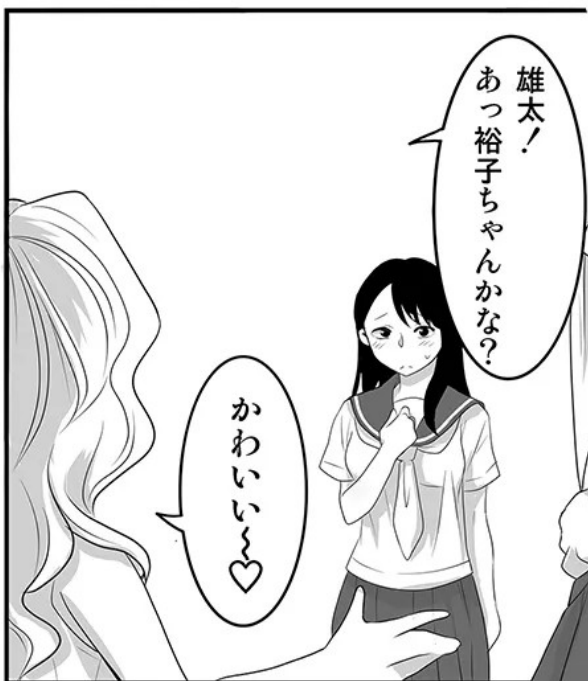
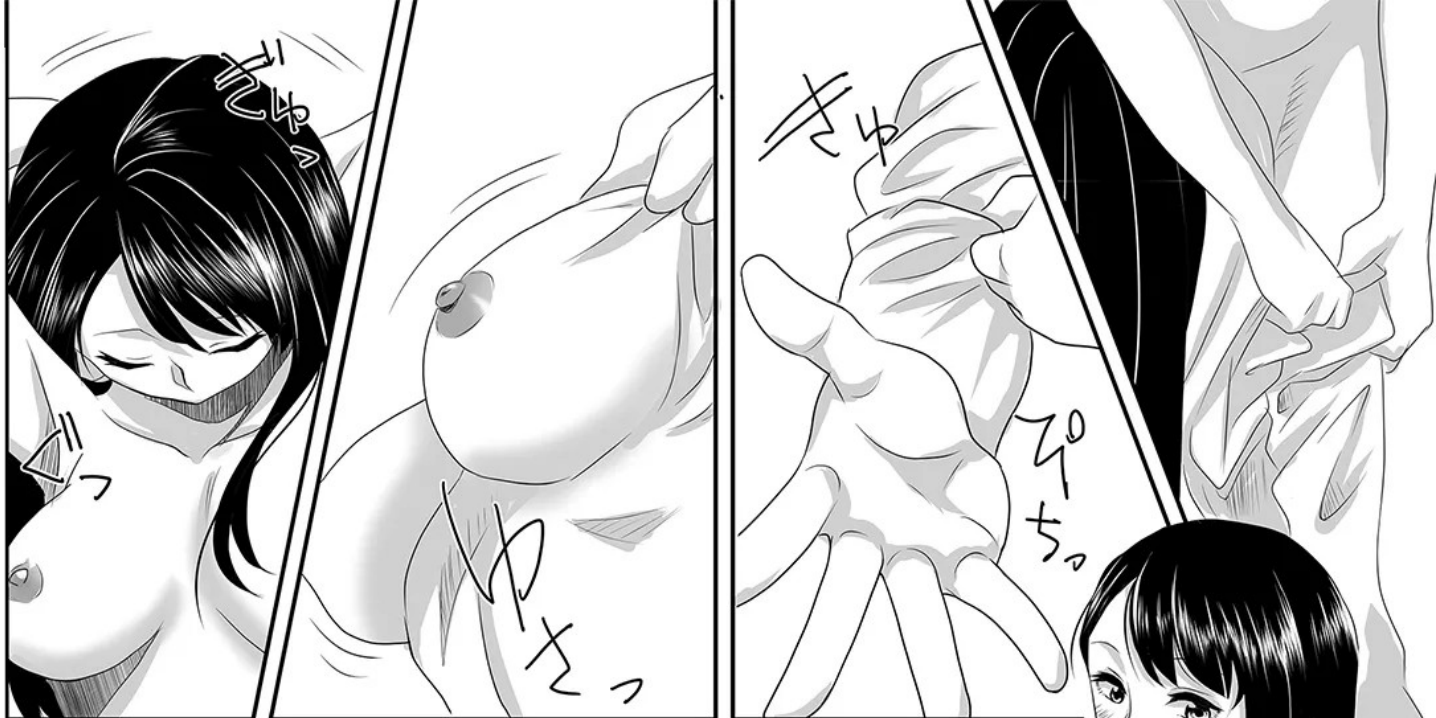
僕…  
本当に着るの?

グキ

グキ



しゅる







よろしくね  
有栖ちゃん♡



ニヤ

かわいい子の隣なんて  
凄く楽しくなりそう



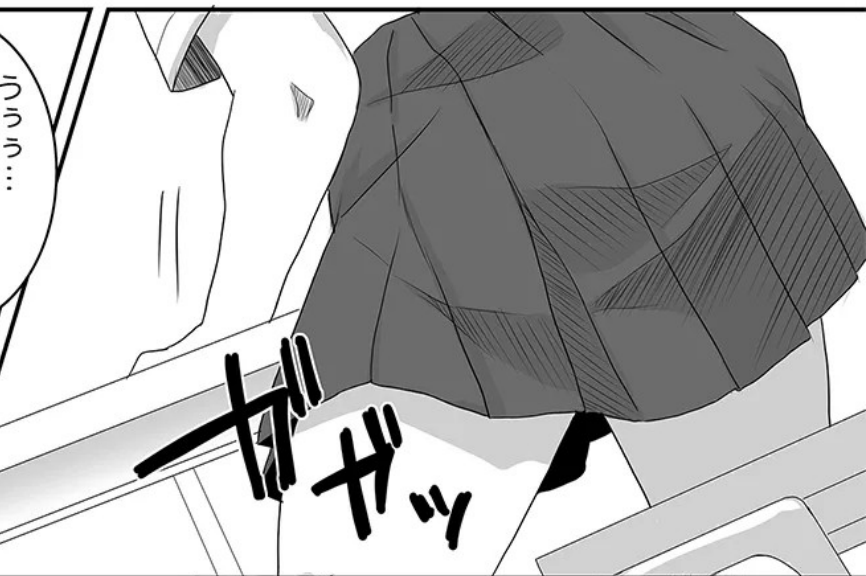
有栖ちゃん  
私の隣だね



ヒヤッ

スカートが短いから  
尚更だ…

ううう…  
太ももが椅子に  
直に当たって  
変な感じ…

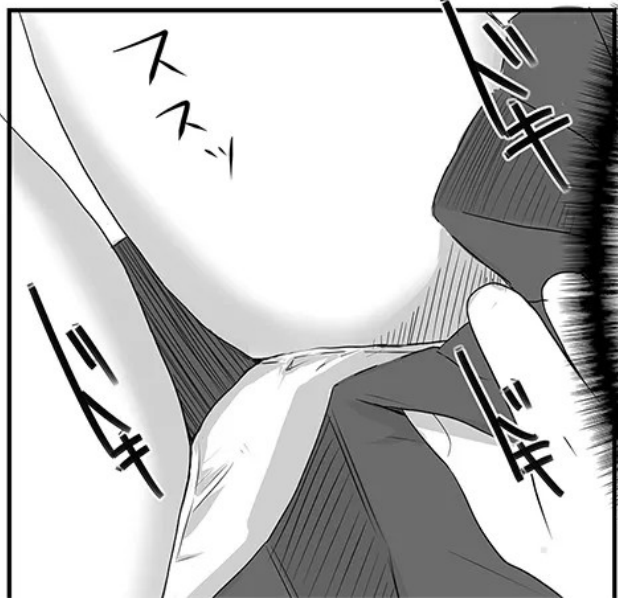


ガッガッ



ドキ

ドキ



ストゥ

ドキ

ドキ



って言うか…ホント  
キレイな脚だな…

真っ白でシミ一つ無い…  
これが僕の脚なんだ…



そう考えると  
変に意識しちゃう…

女の子の下着穿いてると  
自分は男の子じゃないって  
強烈に認識させられる…



ち〇ち〇が無い…

本当に女の子なんだ…  
僕…



一番後ろの席だし…

誰も見えないよね…

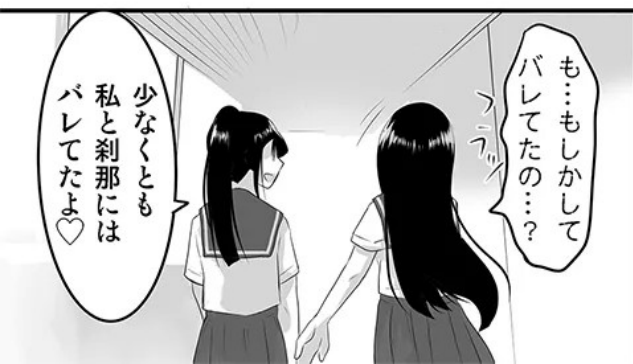
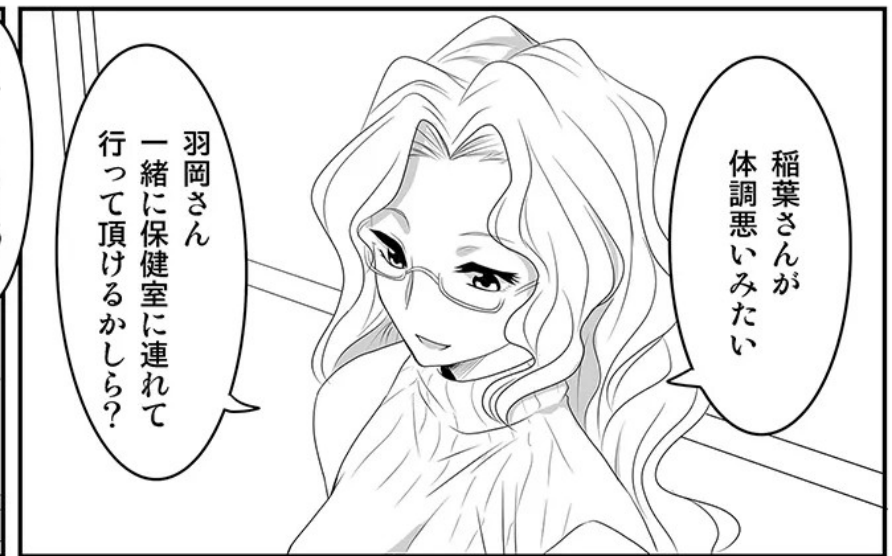


パンツが…  
僕のアソコに  
吸い付いている感じ…

締め付けられている  
感じがしてドキドキ  
しちゃう…

どうしよう…  
妄想が止まらなく  
なっちゃった…







う……うん…  
ドキ  
ドキ

保健の先生  
用事があるって  
しばらく帰って  
こないみたい

良かったね  
雄太!

保健室



おち○ち○  
なくなっちゃった  
とか思ってたんでしょ?

僕女の子に  
なっちゃった!  
とか



ねえ雄太  
さっきどんな事  
思いながら  
オナニーしてたの?

えっ?!  
それは…



しょうがないっ  
「女」の先輩の私が

女の子の気持ちいい所  
全部教えてあげるね!



気持ちいいところ  
ここだけじゃ  
ないんだよ?

女の子ってね…



ん…



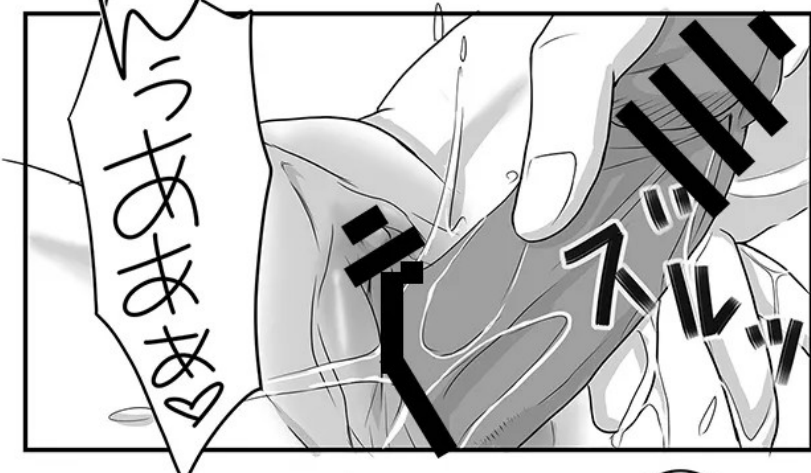






でもね雄太

この「神器」の  
すごい所はこれだけじゃ  
ないんだよ♡



ぐちゃぐちゃ♡



え…？  
あそこから  
ち○ち○が出てきた…？

なんか  
ち○ち○触られた  
時…

今まで感じたことが  
ないくらい  
気持ちよかった…



これヤバイでしょ♡

男の子と女の子の快感  
両方味わえちゃうんだよ♡

どう？  
いつもの倍の  
快感は♪

ば…倍？

倍なんてっ…  
もん…じゃ♡



じゃあこうしたら  
どうなるかな？

そうだよなー♪

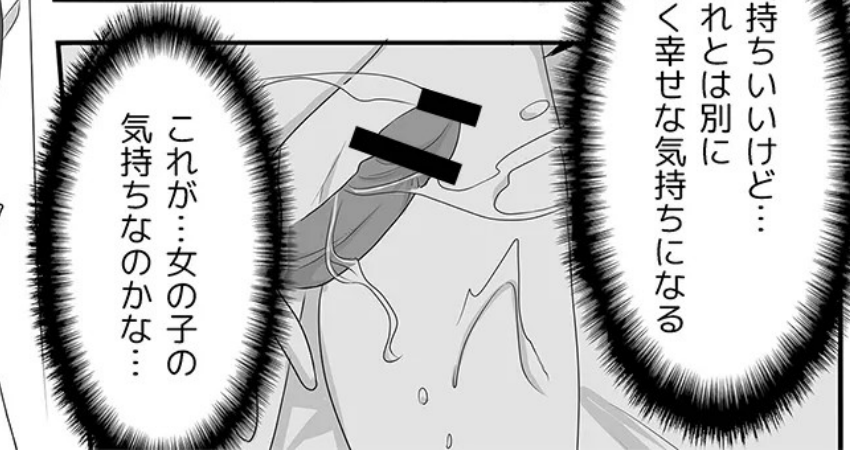


私も  
準備できてるから  
入れるね♡

雄太の初めて  
いただきます♡



ち〇ち〇が動く  
割れ目を刺激して  
強烈な快感が…♡

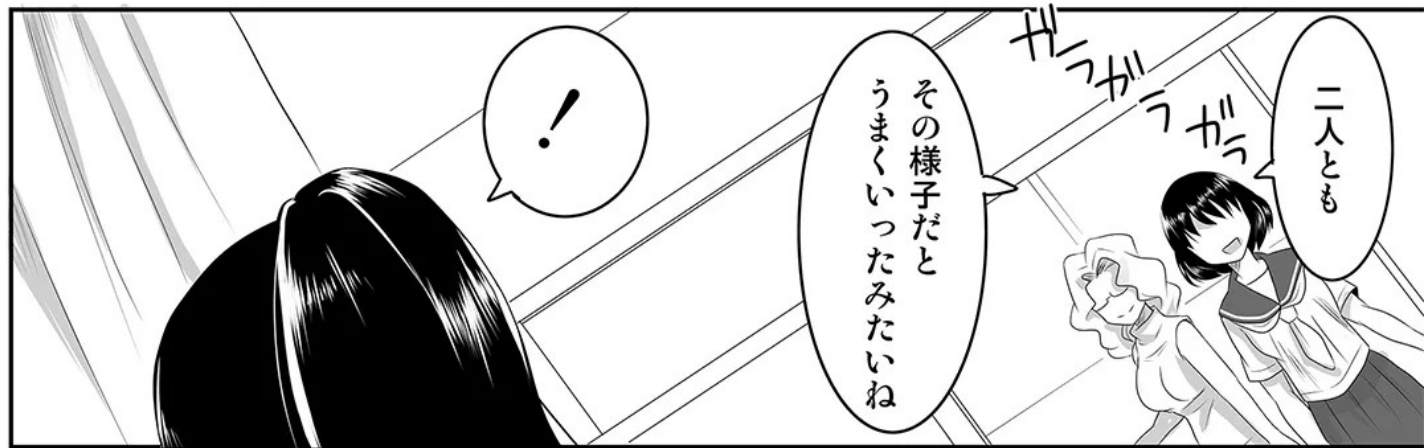


これが…女の子の  
気持ちなのかな…

気持ちいいけど…  
それとは別に  
凄く幸せな気持ちになる









だって  
妊娠してるんだから  
帰って大人しく  
してないとね

あつ  
そっか…



二人とも  
神器を交換  
しましょうか

さっ



全く…

人使い  
荒いなあ…



えっ…  
脱ぐの？

これ交換  
するの…？



ほら羽岡さん  
交換してよ



フ  
フ

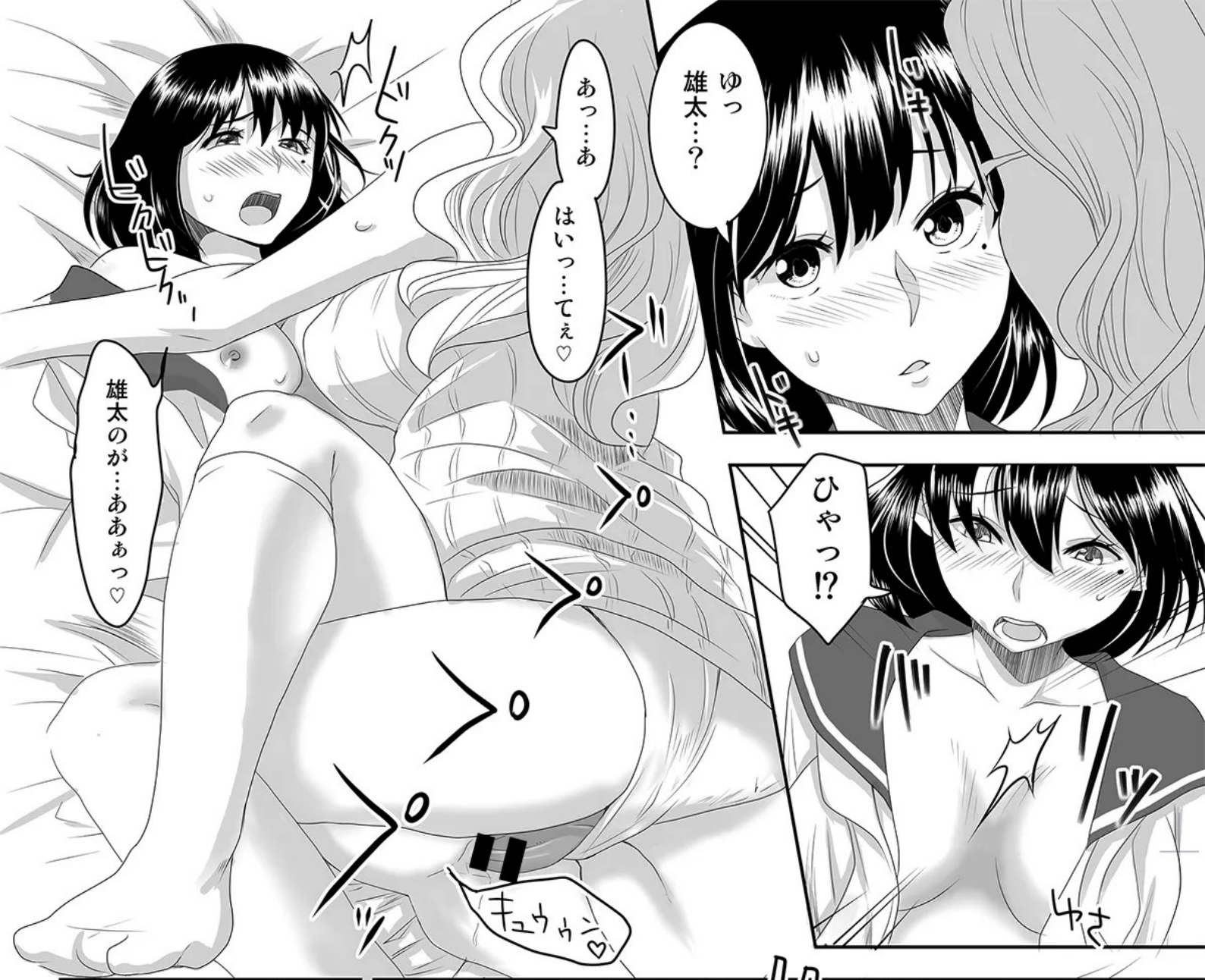


神楽様…  
あの雄太の体…

ええ…  
もう進化が  
始まったのね







雄太のが...あああっ♡

ゆっ  
雄太...?

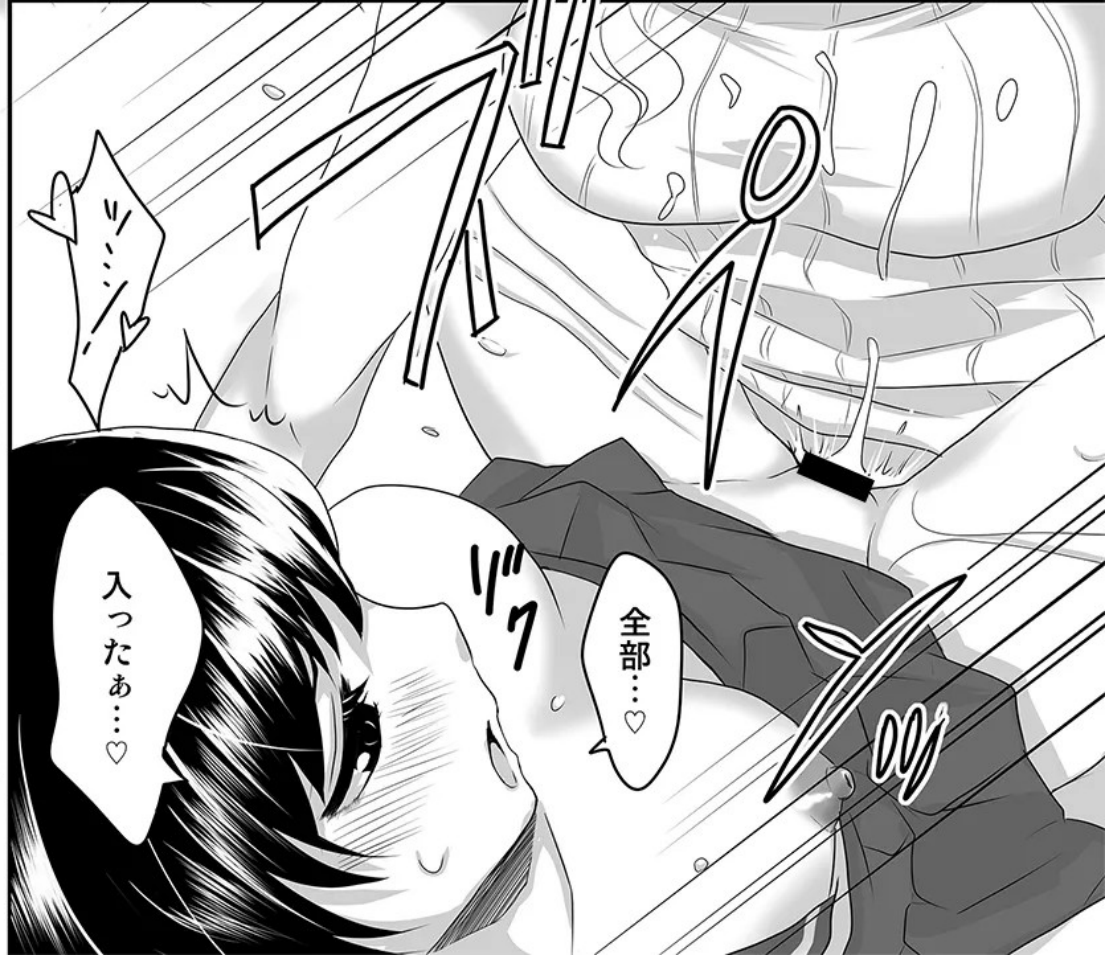
あっ...あ  
はいっ...てえ♡

ひゃっ!?

キュウウ♡

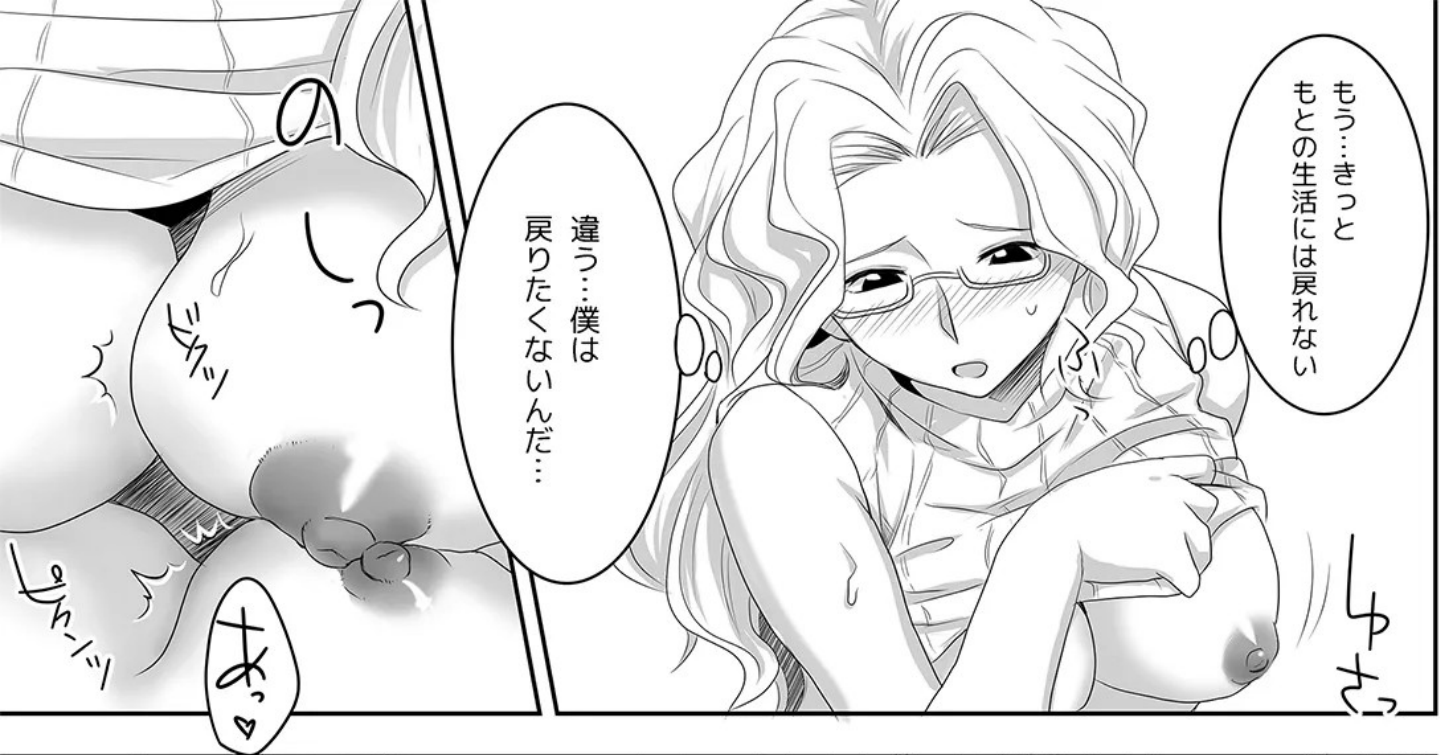


気持ち良すぎて  
頭がおかしく  
なる...



入ったあ...♡

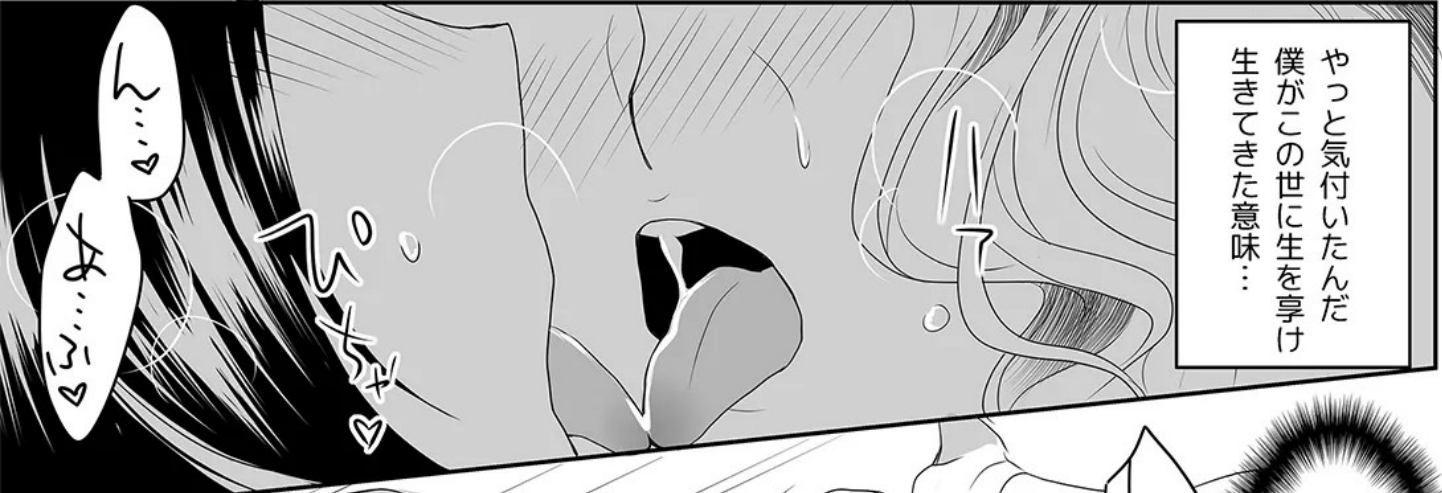
全部...♡



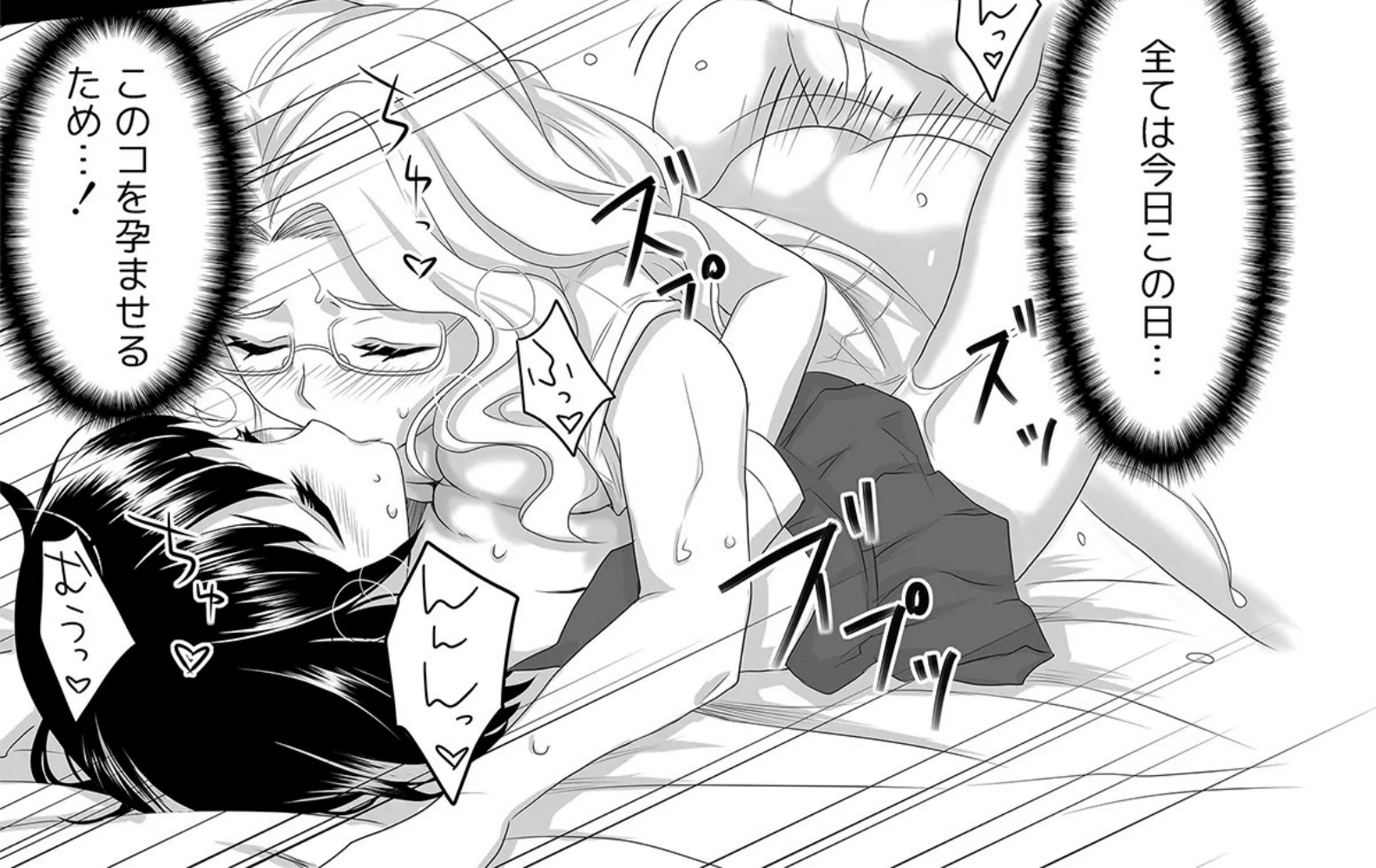
もっ…きつと  
もとの生活には戻れない

違う…僕は  
戻りたくないんだ…

しゅっ  
ぐわっ



やっと気付いたんだ  
僕がこの世に生を享け  
生きてきた意味…



全ては今日この日…

この口を孕ませる  
ため…!

しゅっ  
ぐわっ

ズッ  
ズッ

んああっ♡  
雄太あっ♡

感…じるの

私の子宮が  
雄太の精子欲しいって  
待ち焦がれてるの♡

出すときは…

はあ…はあ…

一番奥に押し付け  
ながら出してえっ♡

出る…  
精液出ちゃう…っ！





今日パパ様が  
お屋敷から出て  
いらっしゃるのですか？

羽化から  
お目覚めになったパパ様に  
早くお会いしたいですっ

そうですね  
もうすぐですからね

天狐様に転生されたパパは  
新しい知識と記憶を持たれ  
私たちを導いてくださるわ

でも昔の事は忘れて  
しまつてらっしゃるから  
皆の事が分かるかな？

あっ！

おお：愛しい  
我が子たちよ

元気にしておったか？



パパ様だーっ!

パパ様っ!



ああ：  
こんな可愛く  
成長しておって：

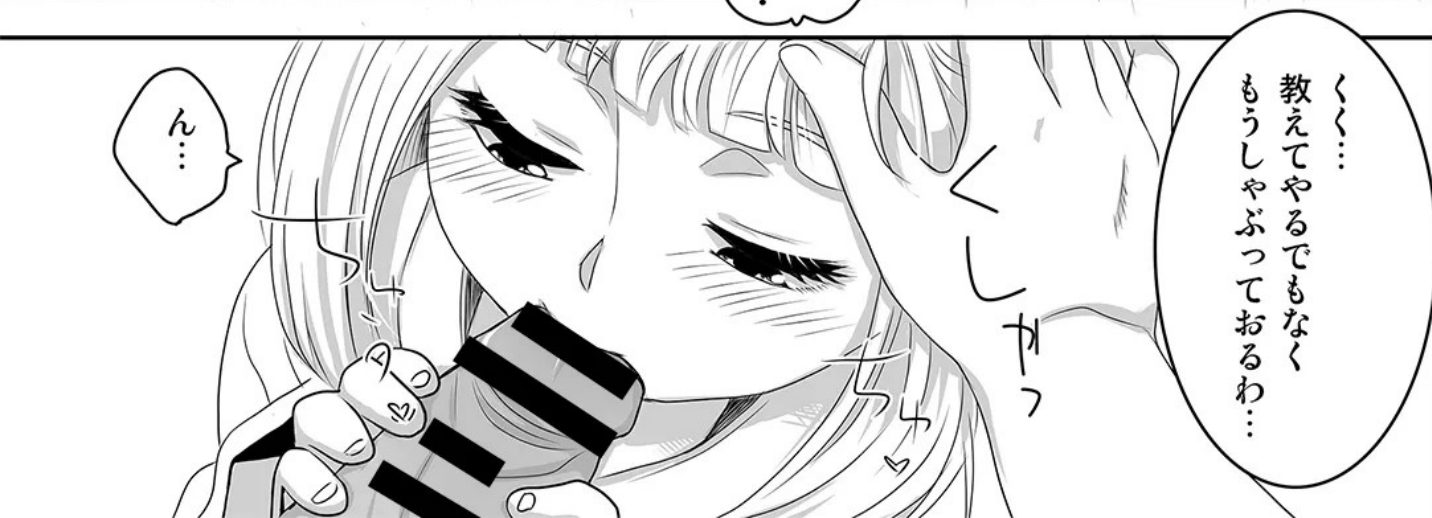
もう少ししたら  
我の子種を注いで  
…ほう？

お前は  
甘えん坊さんだな

うんっ  
パパ様大好き!

これこれっ

ガ  
ば



ん…

くく…  
教えてやるでもなく  
もうしやぶっておるわ…